

安定した品質の小菊を消費地へ

～JA花き部会 小菊出発式～



安定品質を誓った出発式
いわて純情むすめをはさんで左から高橋九三生小菊専門部長、鈴木組合長、佐藤征一花き部会長

JA花き部会（佐藤征一部会長）は7月27日、JA南部園芸センターで小菊出発式を行い、安定した品質の小菊を消費地に届けることを誓いました。

出発式には生産者、県、一関市、藤沢町、市場、JA関係者ら約130人が出席。JAの鈴木組合長は「小菊は合併当初の10倍の実績である。生産者やJA、行政の連携のもと、目標達成に向けて取り組み、今後さらなる産地の確立していきたい」とあいさつ。高橋九三生小菊専門部長が「生産者一丸となり良質で安定品質の確保に努力していく」と力強く決意表明しました。

また、園芸課の加藤哲也花き担当は出発式の事前説明で「今年は春先の低温が



トラックに積み込まれ、京浜方面へ出荷される小菊

初期の生育に影響し、1週間遅くなったが、その後は天候に恵まれ病害虫は少なく、品質が良いものが多い」と現在の状況を話しました。

生産者が見守る中、トラックに300ケース（1ケース100本）の小菊が積み込まれ、関係者がテープカットを行って京浜方面の市場に向かうトラックを送り出しました。

平成22年度の小菊生産は作付面積53畝で、出荷数量12万7千ケース、販売金額5億円を計画。検査体制の充実、小菊生産振興推進員による徹底指導で一層の品質向上を図ります。岩手県の小菊責任産地として、本年度は重量選別を行い、より均一化した規格を消費地に届けます。



出荷されるトラックを見送る生産者



テープカットで小菊出荷を祝う関係者